

北海道議会議員
Go forward 北海道
たけだ浩光 道政通信
所属会派：民主・道民連合
住みやすい『西区』、そして『北海道』をめざします!
発行：たけだ浩光政務事務所 〒063-0811 札幌市西区琴似1条7丁目1-35 ☎011-624-8030 FAX 011-624-8031



第3回定例道議会 9/9～10/3 泊再稼働は？IRは？

第3回補正予算	一般会計(千円)	特別会計(千円)	合計(千円)
今までの計上額	3,056,469,828	1,056,756,692	4,113,226,520
今回補正額	18,051,211	370,027	18,421,238
総額	3,074,521,039	1,057,126,719	4,131,647,758

第3回定例道議会は、9/9(火)に開会し、ヒグマ対策推進費2,985万円や病床数適正化を進める医療機関に対する削減病床数に応じた支援などの医療施設等経営強化緊急支援事業補助金22億6,623万円などを含め、180億5,121万円の補正予算を提出し、また、「緊急銃猟制度などヒグマ対策の更なる推進を求める意見書」などを可決し、2025年度一般会計総額3兆745億2,103万円を計上し、10月3日(金)に閉会となりました。



第3回定例道議会では、代表質問として沖田清志道議会議員(苫小牧市)が質問に立ち、知事の政治姿勢をはじめ、違法開発行為(釧路湿原周辺における太陽光パネル開発等)、医療・福祉課題(医師の偏在是正と確保や看護人材の養成と確保など)、物価高騰対策、北海道宿泊税、IRについて、泊原発再稼働についてや、ヒグマ対策など14項目にわたり追及しました。しかし、毎度ともいえる知事の主体的・具体性の無さと「国任せの姿勢」は変わらず、道民の懸念や不安を払拭する責任を果たすための「リーダーシップ」が欠如していると言わざるを得ませんでした。

また、一般質問では、岡田道議(釧路市)、小林道議(千歳市)、木葉道議(江別市)、小泉道議(十勝地域)、山根道議(札幌市北区)、池端道議(石狩地域)の6名が質問に立ちました。

<p>*物価高騰対策について</p> <p>知事は「地域の皆様や事業者の方々からの声に真摯に耳を傾け、国の動向などを注視しつつ、時機を逸することなく対応できるよう取り組む」を繰り返すのみで、道独自の対策を講じる考えはないことだけが明らかとなった。必要とする方々へ必要な支援が早期に届くよう実効性ある対策を機動的に講じるべきと考える。</p>	<p>*IRについて</p> <p>本会議では、誘致の考え方及び見直しに対する認識について、令和元年に策定した「IRに関する基本的な考え方を改定し、必要な取組を進める」とだけ明らかにしたが、委員会総括で「改定に向けた骨子を第4回定例会で示す」と発言。果たして知事がどう提示するか見守る必要がある。</p>
<p>*泊原発再稼働について</p> <p>知事は「理解要請の範囲は、国として様々な背景を踏まえ、判断したものと受け止める」、「安全性や必要性については、国が丁寧に説明し道民の理解を得ることが重要」との答弁で、国へ丸投げである。4町村以外の道民の声を切り捨てず耳を傾けるべきだ。</p>	<p>*ヒグマ対策について</p> <p>知事は「本定例会に緊急銃猟に伴う市町村の財政負担の軽減のため、補正予算を提案した」、「定例記者会見など様々な機会を通じて情報発信に努める」との答弁。ハンターが責任を問われない身分保障や、道警や地元猟友会との理解醸成に基づく対策に尽力すべき。</p>

核今さら聞けない... 泊原発

シリーズ企画第4弾 ④

みんな気になる 泊原発 3号機再稼働

今年の7月30日、原子力規制委員会は、泊原発3号機の安全対策が新規規制基準に適合しているとの審査書を決定しました。これを受けて、北海道電力は、法的義務はありませんが再稼働に事実上必須の地元同意を得るための「理解要請」を北海道と立地4町村(泊村、共和町、岩内町、神恵内村)に行いました。したがって、知事は3号機の再稼働の是非について判断しなければならなくなりました。

北海道は再生可能エネルギーのポテンシャルが高い

これは鈴木知事が、議会答弁で常日頃発言していることです。我々もそう思います。

私たち(民主・道民連合)の主張

原発再稼働は安心・安全が前提でなければならない

これも鈴木知事が、議会答弁で発言していることです。しかし、原発に絶対安全はありません。

原発再稼働は「核ゴミ」を作ります...

福島原発事故の教訓を忘れるな!

知事は、最終処分場概要調査に反対するのなら、再稼働も反対すべきではないのか

だから私たちは再稼働すべきではないと考えるのです。。。



国は、原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法の対象を原発から半径10km圏内から30kmまで広げました。これによって、原発の周辺自治体への支援の対象範囲が拡大されたこととなります。

こうした国の動きを受けて、私たちは知事に対し、再稼働に関する地元同意をこれまでの4町村から、30kmのUPZ圏内である13町村に拡大すべきであると訴えてきました。しかし、知事は「同意を得る地元の範囲は国が決めるべきもの」として、知事独自の判断を回避してきました。結果として、国は従来どおり、地元同意は4町村と決定しました。

こうした知事の判断は、北海道のトップリーダーとしてあるまじき行為であると訴えてきました。今後、道議会は泊原発3号機再稼働については、「**連合審査会**」で議論していくこととなります。この紙面作成段階では、まだ連合審査会が開催されていませんので、後日改めてご報告したいと思います。

たけだ浩光プロフィール

- 【すまい】西区西野(在52年)
- 1960年 江別市生まれ
その後、すぐ札幌へ
- 1979年 北海道立札幌西高等学校 卒業
- 1980年 北海道大学水産学部 中退
- 1985年 北海道大学医学部附属
診療放射線技師学校 卒業
- 1985年 札幌医科大学附属病院勤務
- 2019年 北海道議会議員 初当選
- 2023年 北海道議会議員 二期目当選

〒063-0811
札幌市西区琴似1条7丁目1-35 さんばちビル2階

TEL:(011)624-8030 FAX:(011)624-8031
e-mail: info@takeda-hiromitsu.com



たけだ浩光オフィシャルWebサイト
オフィシャルWebサイトで道政通信のバックナンバーがご覧いただけます



たけだ浩光 検索

第5回 ミニ道政報告会！

とき：2025.10.4 (土) 10:30～
ところ：ふくい会館1階 D教室

第3回北海道議会定例会の閉会日翌日の10月4日(土)に、第5回目となるミニ道政報告会を福井地区で開催し、参加者6名程度のこじんまりとした中で、皆様に議会最新情報の提供をさせていただきました。参加者の皆さんありがとうございました。皆様からのご意見を交えながら、自由な感覚で思ったことを皆様と懇談をさせていただきました。少人数ながらも、お陰様でいろいろなご意見・ご質問をいただき、ありがとうございました。今後の道政、或いは市議の皆さんと連携しながらより良い西区のために、活かしていきたいと思っております。



＜主な出されたご意見＞

- ◎泊原発再稼働について、国が4町村のみの同意で良いと言うからといって、なぜ知事はそれに従うのか。また、危険性を伴う30km以内の道民を守る行動をしないのか。まずは、道民全体として、再稼働を望んでいるのか？
- ◎新幹線札幌延伸で、JR北海道の収入は本当に上がるのか？運賃・時間など新幹線にメリットはあるのか（飛行機の方が便利では）？
- ◎夜間の除雪作業後に硬い氷を置いていくのをなんとかしてほしい。海外の雪国での除雪はどうか。
- ◎IR（カジノリゾート）問題について、ギャンブル依存症の人が増えるのでは？
- ◎立憲民主党と国民民主党は考え方が似てるのに、なぜ分裂したのか。新しい派生政党が、比例で議席を増やすことについて、どう思うか？

(等々 ありがとうございました。)

インターン生 未来国会予選通過！ おめでとう

(もんま だいち)
＜インターン生＞門間 大地
生年月日：2005年9月17日
出身地：恵庭市和光町
出身大学：北海学園大学法学部法律学科

インターンシップを希望したきっかけは、1年で無駄にした長期休暇を価値あるものにするためでした。

このインターンシップを通じて学んだことは、問題分析、解決策検討の考え方や、事前準備を十分に進めることによる本番での自信。また、普段関わりのない方々との交流を通じたコミュニケーションの取り方などを知ることができました。

【武田道議へ一言】
インターンシップを通じて多くを学び、楽しみながら成長することができました。貴重なご指導とお時間をいただき、心より感謝申し上げます



(よしだ けんしん)
＜インターン生＞吉田 健真
生年月日：2007年3月15日
出身地：札幌市西区
出身大学：北海学園大学経済学部

大学の講義で出会ったNPOの方が「インターンシップを通して強みを見つける手助けをします」と話していたことがきっかけで参加しました。以前から、自分の強みが分からなかったため、この経験を通じて発見できればと考えました。活動では、道庁の方々に向けてプレゼンのデモ発表を行ったり、実際に議事を傍聴して、議員の仕事の流れを学びました。日常生活では経験できない場面に立ち会えたことで、政治をより身近に感じられました。当初は、堅苦しい場を想像していましたが、実際に議員の方と関わると、気さくで親しみやすく、その姿勢がとても心に残りました。

【武田道議へ一言】
貴重な学びの機会をいただき、本当にありがとうございました。

みなさん お疲れさまでした～

よく頑張りました ナイススタッフです！

(たけだ あおい)
＜担当スタッフ＞武田 葵
生年月日：2005年8月12日
出身地：札幌市西区
出身大学：北海学園大学法学部政治学科

大学1年生の時に、議員インターンに参加し、政治学科への進学を考えていた自分にとって貴重な学びとなりました。その経験から、今度は運営側として質の高いインターンを提供したいと思い、学生スタッフとして活動しています。忙しくて大変なことも多いですが、インターン生から「参加してよかった」と言われた瞬間は何より嬉しく、やりがいを感じました。議員や道庁の方々との交流など、自分自身も成長できる機会に恵まれました。

【武田道議へ一言】
いつもありがとうございます。これからも応援してます!!

令和7年度 北海道・東北六県議会議員研究交流大会

とき：2025年8月27日(水) 13:30～
ところ：ホテルメトロポリタン山形(山形市香澄町1-1-1)

＜発表者：道議会議員 たけだ浩光＞

テーマ「医療提供体制の確立・充実について」 ー北海道における航空医療についてー

8月27日に開催された、令和7年度北海道・東北六県議会議員研究交流大会に出席してきました。冒頭、山形県議会議長の開会挨拶と山形県知事の来賓挨拶があり、引き続き山形大学医学部附属病院重粒子線治療センター長の小藤昌志氏から、「医療分野での放射線利用」などについて講演を受けました。その後第1分科会として、上記テーマについて私から発表を行い、フリートキングによる意見交換で情報共有を図ってきました。さらに第2、第3分科会で各県から発表があり、全体として各道県議会議員を含め、約105名程度の規模で開催されました。



研究発表する武田道議

航空医療とは 航空機を用いて、傷病者を救急現場から医療機関へ搬送したり、医療機関間で転院搬送を行う医療活動



回転翼：ドクターヘリ



固定翼：メディカルウィング
(普段は小牧空港に待機している)



機内の様子

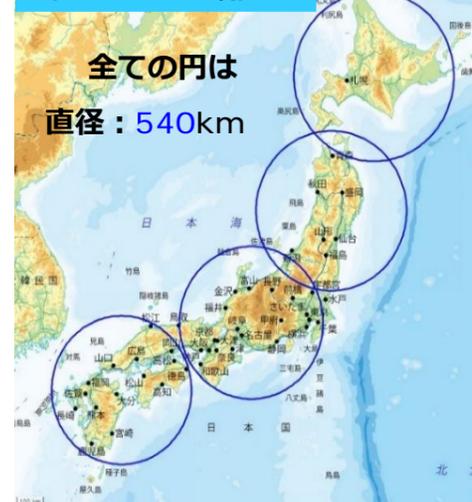
北海道の広さは他県と違う！ でもドクターヘリ4台？

北海道と東北地方を比較
北海道・・・8万3,424km ²
東北地方・・・6万6,948km ²

北海道は、離島も含めて4圏域に1台ずつ4台所有している。東北6県は青森県が2台、その他の県は1台の計7台所有している。しかし、北海道の東北地方より広大な面積を考えれば、明らかに機動力や効率性が劣ると言える。特に都市部から離れた過疎地域を多く抱える北海道は、道民の生命を守る大事な航空医療となっており、その必要性は高い。

【課題】 機体整備、燃料費、人件費などが増大し、国が定める補助基準額以上の運営費を要し、対象外経費を含め、費用負担が課題となっている。⇒持続性への懸念！

北海道の距離感



道内ドクターヘリの運航状況等

区分	道央	道北	道東	道南
基地病院	手稲溪仁会病院	旭川赤十字病院	市立釧路総合病院	市立函館病院
運航会社	中日本航空(株)	朝日航洋(株)	中日本航空(株)	中日本航空(株)
運航開始年月	H17.4	H21.10 ※十勝圏H27.11.20から	H21.10 ※十勝圏H27.11.20から	H27.2
主な運航圏	道央圏 道北圏 (富良野・留萌周辺)	道北圏 道央圏(北空知) オホーツク圏(遠紋)	釧路・根室圏 オホーツク圏(北網) ※北網圏H24.5から 十勝圏	道南圏
	31消防本部79市町村	16消防本部60市町村	10消防本部37市町村	7消防本部18市町村
R5年度運航実績	247(297)	244(270)	192(226)	341(415)
	1,024(1,208)			
R6年度運航実績(速報値)	222(260)	245(275)	210(249)	259(324)
	936(1,108)			

※運航実績欄、()内は離陸後キャンセルを含む